

持続可能な原材料調達

考え方

GRI204-DMA

▶ 動物との共生に関するグループポリシー

実績

GRI204-DMA

GRI416-DMA

GRI416-1

▶ P55

動物との共生(アニマルウェルフェア)

味の素グループで生産する食品には、畜肉や卵、エキス等の動物由来の原料が欠かせません。近年、家畜の飼養においてもアニマルウェルフェア(誕生から死を迎えるまでの間、ストレスをできる限り少なく、行動要求が満たされた健康的な生活ができる飼育方法を目指す畜産のあり方)への注目が高まっています。

味の素グループは「動物との共生に関するグループポリシー」を掲げ、バリューチェーンに関わるすべての動物とのより良い共生関係の構築を目指した取り組みを進めています。

畜産物のトレーサビリティ調査

2018年度、味の素(株)は日本国内のすべての一次サプライヤーに対して「動物との共生に関するグループポリシー」を共有するとともに、畜肉および畜肉エキスサプライヤー23社に対してサプライチェーン上のトレーサビリティ調査を開始しました。原産国における法規制やガイドラインへの対応状況、飼養現場までのトレース可否等の情報を収集し、課題把握とリスク分類につなげています。また、同様の調査を味の素冷凍食品(株)でも実施することができるよう準備を進めました。

2019年度以降は、日本では味の素冷凍食品(株)での上記調査を進めるほか、アニマルウェルフェアの観点から関心の高まっている鶏卵や畜肉等の原料に関する情報収集を進めます。海外では、法整備状況や対象原料の把握を進めるとともに、サプライヤー各社にポリシーを共有する予定です。

飼料用アミノ酸による畜産の栄養課題への貢献

動物の体は約20種類のアミノ酸で構成されており、そのうちの数種のアミノ酸は必要な量を体内で合成することができません。これらのアミノ酸は必須アミノ酸と呼ばれており、家畜の飼養においては配合飼料で補っています。

小麦やトウモロコシからつくられた飼料は、必須アミノ酸のバランスが悪いため、「飼料用アミノ酸」を加えることでこれを改善することができます。飼料のアミノ酸バランスが改善されると、飼料効率がアップし、家畜の成長促進を図るとともに、窒素排せつ量を減らして環境負荷を低減することにもつながります。

